



鹿児島地区子ども会大会、指導者・育成者研修会

第53号
【年3回発行】
日置地区
社会教育振興会
(事務局)
鹿児島教育事務所

ふるさとを興す保健・福祉学習大会
及び組織・教育・食料・環境学習大会
日置地区地域女性団体連絡協議会

8月開催予定であった本大会がコロナ禍のため12月16日(金)、いちき串木野市いちきアクアホールで開催されました。

保健・福祉学習大会

「ウイズコロナ時代の健康づくり」と題して県民総合保健センター保健師の小門未央子先生=写真の講演がありました。



感染防止を徹底しながら、意識して自分から動くことが大切だと話され、日常生活でできる健康づくりを具体的に教えていただきました。

組織・教育・食料・環境学習大会

発表者は、照島小学校読み聞かせグループ「てるてるくらぶ」と伊集院地域女性連絡協議会長 南田ヤエ子さんでした。=写真



「てるてるくらぶ」は学校と連携して、読書好きな子供たちを育てるために、読み聞かせや手作りの創作劇や人形劇など工夫を凝らした取組を20年も続けてこられ、「文部科学大臣賞」を受賞されました。

伊集院地域女性連では、妙円寺詣りの行事大会、女性大会の開催など、まさに伊集院地域の特色を生かした活動を長年、地域のために地道に取り組んでこられていました。

これからも地域社会の中で先頭に立ち、時には発想の転換を図り、女性連にできることは何かを問い続けてほしいと思います。

12月3日(土)、いちき串木野市市民文化センターで開催され、子供、指導者・育成者等合わせて260余人が参加しました。荒川小児童による「荒川太鼓」
=写真で幕を開け、表彰式、体験発表、創作活動、講演がありました。
子ども会活動・体験発表
ジュニア・リーダークラブ「チェリーブロッサム」と、日置市青少年リーダー研修事業「チャレンジ霧島」の発表



表、いちき串木野市の「野平地区子ども会」と「川上子ども会」の活動発表がありました。子供が主体的に取り組んでいる様子が伝わる素晴らしい発表でした。

創作活動

子供たちは、2会場に分かれ、県立青少年研修センター研修主事の指導と2市のジュニア・リーダークラブの方々の支援を受け、「年輪ネットワーク」づくりにより、互いに協力しながら楽しく取り組みました。=写真



講師は、元鹿児島市立長田中学校長で現在は県人権同和対策課人権研修推進員の常深透氏=写真です。「『地上の星』のあなたへ」元気であれば何でもできる」と題して、自己肯定感、自尊感情の大切さとリフレミングの視点を意識して子供のキラリ輝く存在感を見直してほしいと話されました。楽しく、ユーモア溢れるトークに参加者は最初から最後まで引き込まれていました。



- 受賞 おめでとうございます**
- 【地区子ども会育成連絡協議会表彰】
 - 妙円寺9区子ども会(日置市)
 - 寺脇子ども会(日置市)
 - 旭地区子ども会育成会(いちき串木野市)
 - 湊町地区子ども会育成会(いちき串木野市)

昨年4月から地域に密着した社会教育活動に携われることに感謝し、毎月、朝の登校風景を楽しんでいます。



特に、後期課程の生徒は立ち止まり、スツと背を伸ばし「おはようございます」とあいさつをしてくれれます。そして、校門前でも再び立ち止まり、一礼して校門をくぐります。その凛とした姿は風格があり、日吉学園の少年・少女を育んできた日吉地域の歴史と風土を感じさせます。

日和下駄
日置市教育委員会日吉教育振興課
課長 迫田 多恵子

日吉学園登校風景
義務教育学校「日吉学園」では、徒歩・自転車・スクールバスで前期課程児童(1年~6年)と後期課程生徒(7年~9年)が、校門まで続く50メートル程の道を仲良く一緒に登校しています。

私は、朝、校門近くで子供たちを迎えますが、子供たちはいつも私よりも先にあいさつをしてくれます。

復活を願う 市来の七夕踊

本市には、**国指定重要無形民俗文化財「市来の七夕踊」**があります。この踊りは、約400年の歴史があり、そのことを地域の方々も誇りとしています。しかし、昨今の少子高齢化の波には勝てず、現在の規模での開催は令和4年度が最後となってしまいました。

市来の七夕踊は、他の民俗芸能とは異なり、規模が大きいことも特徴の一つです。**大里地区の14の集落**が共同でそれぞれの出し物の役割分担をして、踊りが成り立っています。例えば、宇都集落は作り物の「鹿」、島内集落は「虎」、堀・平ノ木場集落は「牛」、門前集落は「鶴」、弘山・松原

楽しく 薩摩焼の絵付け講座

今から420年前、島津家17代義弘は陶工70名ほどを薩摩に連れてきました。陶工のうち一部は、いちき串木野市の島平に上陸して登り窯を築き、朝鮮から持ってきた土や道具と技術で、日用品などの焼き物を作りました。市内には、薩摩焼発祥の地をはじめ、薩摩焼に関する3つの史跡があります。

短期講座(3回)として美山陶遊館から宇治野美幸先生をお招きし、薩摩焼の絵付け講座を開講しました。受講生は10名。受講生が薩摩焼の皿や湯呑に小筆で模様や柄を描き、

集落は大名行列のバリンなどです。太鼓踊は14集落の中からそれぞれ選出されます。こうした分業制からそれぞれの集落がどんな風に道具を準備しているか他の集落の方々は知りません。また、道具の作り方などは古老から若い世代へと実際に製作しながら引き継がれており、記録にあるものではないから集落で「才」と呼ばれる若者がいないと製作の技と知恵、そして何より踊り子自体がない状況になり、七夕踊の構成要素の一つが無くなってしまうことになるので



市文化祭で展示された「作り物」

それを先生が持ち帰って窯で焼き上げるという進め方です。釉薬を少量の水で溶かして混ぜ、筆で色をのせていきます。小筆は様々な大きさがあり、用紙に少し下書きをし、「筆を走らせる」感覚をつかんでから本書きをしていきます。家で下絵を描いてこられたり、スマホの画像を写し取られたり様々でしたが、どの部分に描いていくか、余白の取り方やバランス、色の合わせ方など先生からアドバイスを受けながら描き進めます。「作業をするときよく聴いているんですよー」と言われる先生おすすめ用のBGMを聴きながら、心を打ち込んで筆を走らせ、深

い色彩の世界に浸っている受講生の姿を目の当たりにしました。あつという間の90分でした。焼き上がりを楽しみます。



す。こうした状況が大里地区全体で起こってしまい、現在の規模での開催が今後不可能となったのです。市として、将来復活する時のため、記録として残すことが必要と考え、国の補助を得て2か年の記録事業に取り組みことにしました。保存会としても、この記録事業に全面的に協力することになりました。また、七夕踊の存続に危機感を持った若い世代から太鼓踊だけでも後世に残していこうという機運が高まり、今年の1月に、「七夕踊伝承会」が新たに設立されました。今後は保存会や地域、そして七夕踊伝承会などと連携して、より良い伝承活動となるよう引き続き、話し合いをしていくつもりです。

あおぞら活動「悪石島子ども会」
昭和19年に戦争からの疎開者を乗せた対馬丸が魚雷攻撃を受け、多くの犠牲者が出ました。島の方々は、流れ着いた遺体を埋葬し、戦後、慰霊碑を立てて供養を続けています。

島の人口の減少により、毎月、清掃と焼香を学校の子供たちが「あおぞら活動」として行っています。この活動を通して、犠牲者や遺族の方々の悲しみを想い、そして、平和への願いを新たにしています。悪石島には、伝統として受け継がれてきた島の行事がいくつもありません。その多くが神様に由来するもので、平成20年にユネスコ無形文化遺産に登録されたボゼ祭もその一つです。島の方々が守り続けてきた証と言えます。「伝統」には、それを大切に受け継ぎ、生活してきた島民の想いが宿っています。今、悪石島の子供たちが「あおぞら活動」として担い、受け継いでいるものはそういう目に見えないものを尊ぶ心なのかもしれません。島の方々の想いを脈々と引き継いできた「伝統」を守り、後世に伝えていくために、子供たちの様々な活動を支援していきたいと思えます。



慰霊祭の後で

困難な事にもくじけず 果敢に挑戦!

日置市リーダー研修事業「チャレンジ霧島」

7月26日(火)〜7月28日(木)に、霧島市で、次代を担う心豊かでたくましい青少年の育成を図ることを目的に日置市リーダー研修事業「チャレンジ霧島」を開催し、日置市内の小学生(5・6年生)8名、中学生(1年生)2名、引率職員5名の計15名で写真、自然体験や野外活動などを中心としたリーダー研修を行いました。

出発式では、児童生徒全員が、「チャレンジ霧島」に向けた抱負を緊張した表情で述べていました。その後、団員は、高千穂牧場や霧島神宮を見学しながら、少しずつ交流を深めていました。宿泊先の県立霧島自然ふれあいセンターでは、異年齢集



団による共同生活で多くのことを学びました。

2日目は、天候にも恵まれ、池巡りトレッキングで写真を撮りました。団員の体力に配慮した隊列を組み、えびの高原



の自然を感じながら山頂を目指しました。途中、鹿と遭遇し、日常では味わえない体験をすることができました。そして、池巡りトレッキング途中に、霧島連山を360度景観できる場所で、「うわぁー、凄いや」など感動する場面がありました。

夜の活動では、ともしびのつどいを実施し、親火、子火など様々な役割を果たしながら、参加者全員で幻想的な世界を築くことができました。サトもしびのつどいの終わりには、サ

プライズ誕生会もあり、思い出深い霧島の最後の夜となりました。

最終日は、上野原縄文の森にて火起し体験で写真を撮りました。最初は、なかなか火を起すことができませんでしたが、火起こしのコツをつかんだ団員が、火起こし作業に苦勞し



解散式では、団員が、「寝食を共にし、皆で力を合わせてやり切った貴重な体験は大きな自信になりました。これからも困難なことがあると思いますが、くじけずに頑張りたい」と述べていました。

吹上町の伊作太鼓踊

県指定無形民俗文化財



伊作太鼓踊=写真は、応永13年(1406年)島津氏分家伊作氏第4代の城主久義が、田布施の牟礼ヶ城を攻略したときに考案された踊りであるといわれています。

歌方数名、中打4名(鉦2、小太鼓2)、平打22名位で踊ります。花笠をかぶり美しい衣装にたすき掛けの中打を中心に、白装束わらじ履きで太鼓を胸に幟、薙刀、6尺の矢旗を背負った平打が、中打の鉦のリズムに合わせて太鼓をたたき、矢旗を振り勇壮活発に踊ります。

現在は、湯之浦、入来、中之里、和田、花熟里、田尻の6保存会が交代で、毎年8月28日に南方神社で奉納し、翌日にかけて吹上地域内各所で披露します。

本年度は、湯之浦保存会が3年ぶりに奉納しました。(1日のみの披露)湯之浦地区の小学生から成人の踊り手が3月から練習を始め、保存会一丸となって準備に取り組み、地域の方々などにその雄姿を披露することができました。



ママデイさんが来島すると必ず演奏していただく「ジョレ」を感じました。子供たちはママデイさんが残してくれたジャンベの素晴らしさを改めて実感したようです。

天まで届け ジャンベの響き! ママデイさん追悼イベント

「日本の小さな村の子供たちと交流をしたい」。

ギニアの世界的なジャンベ奏者ママデイ・ケイタさんが三島村にやってきましたのは平成6年。以来、子供たちにジャンベを指導したり、硫黄島のジャンベスクール設立に協力したりするなど、村との交流を深めてきました。一昨年亡くなられた、そのママデイさんを追悼するイベントを昨年11月、「ママデイ・ケイタ メモリアル in 三島村」で写真として、硫黄島で開催しました。

当日は村内外から280人ほどの参加者が集い、トークイベントでママデイさんの温かな人柄をしのぶとともに、ジャンベステージでは、村の4義務教育学校の全校が金賞を受賞した「夏の祭典」での演奏曲を披露したり、合同で「MISHIMA」を演奏したりしました。フィナーレでは、

県PTA活動研究委賜公開

日置市PTA連絡協議会

心豊かでたくましい子どもの育成

～家庭・学校・地域の連携・協働を図りながら～

1月28日(土)、伊集院文化会館で開催され、約350人の参加がありました。伊集院小「世界に響け！伊小っ子太鼓」と妙円寺小「ココ」がふるさと」の映像による感動的なアトラクションの後、開会行事では、県PTA連合会副会長西田憲智氏が開会のあいさつを、永山由高日置市長が祝辞を述べられました。

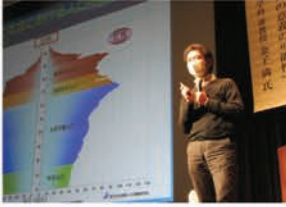
研究発表・協議

妙円寺小PTAは独自の「PTA活動ガイドライン」を作成し、ふるさと大作戦などコロナ禍だからこそその取組を、土橋中PTAは「自分で作る弁当の日」など学校・地域と連携した食育の取組を、日吉学園PTAは義務教育学校開校2年目として新たなPTA組織の在り方について、それぞれ発表をされました。3校PTAとも、地域と連携・協働を図り、地域力を生かした特色ある活動でした。

講演

金子満鹿児島大学准教授II写真が「協働から響働へ、新たな時代に向けたPTA活動の意義の可能性」と題して、講演されました。

右肩上がりの社会モデルの終焉を指



各学校の発表者

摘し、若者の現在の状況やPTA活動がどうあるべきかを考える講演でした。協働から響働(シンフォニー)へ向けて、それぞれの個性や特技を生かして、

ふるさとを愛し 夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり

日置地区生涯学習推進大会・いちき串木野市生涯学習大会

感染症予防対策を講じ、本地区大会が2月5日(日)、2年ぶりに、いちき串木野市市民文化センターで開催され、約250人の参加がありました。

大会はいちき串木野市を中心に活動されているエイサー団体の創作太鼓衆「琉苺華」の迫力ある演舞で幕を開けました。II写真



開会行事では、中屋謙治会長(いちき串木野市長)が開会のあいさつを述べられた後、地区・市の社会教育等に尽力された個人や団体の表彰が行われました。また、全国・九州・県において受賞された方々の表彰伝達も併せて行われました。

学習成果の発表では日置市の妙円



表彰を受けられた皆さん

て、楽しく、わくわくしながらPTA活動を行ってほしいとテンポよく語られました。今後のPTA活動に多くの示唆をいただきました。

寺地区公民館講座「太極舞」の皆さん、いちき串木野市の自主講座グループ「渚ハーモニカクラブ」の皆さんに発表していただき、会場からは大きな拍手が送られました。

講演は「伝われ！私たちの青春」と題して、県立市来農芸高等学校生徒3名II写真との対談という形で行われました。

コーディネーターは高校生町内会会長で話題の金子陽飛さんでした。



畜産科1年生の上村愛さんは、県ビジネスプランコンテストで「大賞」を受賞した「温暖化を武器にした低コストなコオロギ養殖で家畜飼料を生産」を発表しました。次世代の食材「昆虫食」に注目し、具体的にリサーチし実践した発表に、参加者から大きな拍手が送られました。夢をもって取り組んでいる高校生の姿に、「将来が楽しみだ」と感想を述べる参加者もあり、有意義な生涯学習推進大会でした。

日置地区社会教育優良団体・個人表彰
★日置市
・久保文男
・西内伊津子
★いちき串木野市
・久留寿雄
・西ノ園義明
・西山浩市
・大平良徳
・羽島南方神社太鼓踊り保存会

武家屋敷群「麓」を歩くⅢ
日置地区文化財担当者研修会を11月16日(水)、実施しました。

今回は日本遺産「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麓」を歩く」の第3弾として、出水麓をたどりました。出水麓は、肥後と薩摩の国境の町として数多くの薩摩藩士が郷士として住んでおり、薩摩藩で最も古く、最も規模が大きい麓です。

県指定文化財である出水御飯屋門をはじめ、武家門・石垣生垣や竹添屋敷など4軒の建築物があり、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。武家屋敷群「麓」を廻りながら、その当時の薩摩の武士達が農耕に従事し、武芸に励んでいた生活に思いを馳せることでした。



税所邸で説明を受ける担当者

編集後記

永遠の新人たれ
遠い昔、ある研修会での濱里忠宣氏(故人・元県教育長)の言葉。幾つになっても、今その情熱、その新鮮な気持ちを生かさないでほしいという教え。春になり旅立ちと出会いの季節です。いつまでも初心を忘れないで前に進んでいきたいものです。(事務局 田中)